

みつぎ便り

111号
12月号

板橋区役所みどりと公園課の花づくりグループと
エコポリスセンターの環境観察員地域自主活動グループに
所属しているボランティア団体「見次の会」です

平成27年12月1日 <http://itbs-ecopo.jp/projects/environsurvey/2013/000253.htm>

ツワブキ

公園入口の左側の植込みに
ひっそりと晩秋を告げるツワブ
キの黄色い花が咲いています。
ツワブキは黄色い斑入りの円形
の葉を広げ、秋に葉の間を抜い
て五十cm位の花茎を伸ばし、先
端にはキクに似た一重の黄色い
頭花を数輪並べます。

江戸時代の日本最古の園芸書
「花壇綱目一六八一年」にも既に
記述があり、鑑賞用として寺茶
庭などの庭石や手水鉢まわりに
よく植えられています。

名の由来はその常緑の葉がい
つもワックスをかけたように艶
やかなところからと云われます。

古くは葉柄をフキと同じよう
に佃煮や和え物など食用にした
り、春には若葉を摘み火であぶ
りおでき、はれ物、やけど、湿
疹に貼るなど薬剤としても用い
られたようです。昨今では、秋
冬用ハンギングバスケットの名
脇役としては欠かせない貴重な
存在です。

花が咲き終わった十二月一
月頃に綿毛に覆われタネが風に
飛ばされ散っていきます。立ち
合いたいものですね。
(雅)



ピラカンサ

ピラカンサは、バラ科トキワ
サンザシ属の総称であり、個別
の花や実、樹木を指したもので
はありません。

日本ではタチバナモドキ、ト
キワサンザシ、ヒマラヤトキワ
サンザシの三種類が多く栽培さ
れており、秋も遅くなると生け
垣や公園等でこれらの赤い実が
目立ちます。

見次公園では鳥がもたらした
ものでしょうか、機械小屋の
花壇のわきに一本育っており、

十一月中旬現在、たわわに果実
を付けています。

三種類の違いは実の色で分か
ります。オレンジ色のタチバナ
モドキ、鮮やかな紅色のトキワ
サンザシ、濃い紅色のヒマラヤ
トキワサンザシです。

近年、園芸品種や交雑したも
のもあるようですので、特定す
ることは難しいのですが、先に
見た特徴からすると、見次公園
のピラカンサはトキワサンザシ
ではないかと思われます。皆さ
んも実の色を良く観察してみ
て下さい。
(利)

